

松澤善裕氏所蔵文書目録

森 弘子
宮崎 克則
安高 啓明

松澤善裕氏所蔵文書は西南学院大学博物館管理運営規則第11条に従い、2012年6月12日付で本学博物館が寄託を受けたものである。目録および資料の紹介に先立ち、寄託されるまでの経緯について触れておきたい。

本資料群について、甘木歴史資料館の馬田弘稔副館長(役職名当時)から本学博物館学芸員安高啓明に九州域のまとまった古文書を所有している方がいるという情報をいただき、その一部を調査することになった。本学博物館は甘木歴史資料館で開催された2010年度秋季特別展「秋月・今村のキリシタン－信仰・禁教・祈り続けて」に協力しており、それ以来、キリシタン資料に関する情報共有をしていた。その一環の中で個人でまとまった資料群を所有していることをうかがい、5月12日に事前調査をおこなうこととなった。調査を進めていくと、特に平戸藩関係の資料であること。そして、このなかにキリシタン関係の書状も含まれていることを確認し、資料の一部を撮影したうえで、大学博物館で協議することとなった。そして、6月12日に本学博物館長高倉洋彰(役職名当時)と所蔵者である松澤善裕氏の立会いのもと、調査研究に活用するというを前提とした寄託文書を手交した。なお、松澤氏は、このほかにも、福岡藩の宗門人別改帳や踏絵(模造)も所有していたことを付記していく。

松澤善裕氏所蔵文書の総数は295点。多くは書状であり、約50点の下絵もある。大名が抱えるような御用絵師の下絵でなく、好事家の絵と思われる。その他の一紙類は多く平戸藩領的的山大島に関する史

料群である。的山大島は「あづちおおしま」と読む。長崎県の平戸島の北方にある島であり、行政的には平戸市に属する。通称で大島と呼ばれている。本紀要で論文として掲載する森弘子・宮崎克則「西南学院大学博物館寄託『松澤善裕氏所蔵文書』に見る鯨組と地域漁業の軋轢」は、そのうちの1点の書状を紹介している。

多くは1800年前後の史料であるが、No:58『上使御尋御益覚書』は宝永7(1710)年にやってきた幕府巡見使への対応記録である。それには、「鯨ハ何程之銀高在之候哉と御尋ニ付、鯨ニハ段々銀高之品申上候ハ、鯨壺本ニ付、四メ目より式拾貫目迄銀高御座候と申上候」とあり、宝永の巡見使は捕鯨の収益に興味をもっていたことがわかる。その質問に答えた小川卯右衛門は最大で銀20貫目と答えているから、金333両余。現在の価格では、18世紀初期なので1両=20万円とすると、約6600万円の収益を1頭の鯨から得ることができたことになる。またNo:55文政9(1826)年『御領分代官庄屋控帳』は、平戸藩内の代官と村々の庄屋名を書き上げる。当時の「生月二ヶ村」の代官は後藤定八、「大島、度島二ヶ村」の代官は松本孝平、「生月村」の庄屋は山川虎左衛門、「度島村」の庄屋は川村猶平、「的山村」の庄屋は浜田宗助、「大島村」の庄屋は永井領之助などあり、平戸藩内の庄屋数は「メ八十五庄屋」であったこともわかる。

さらにNo:246文政1(1818)年「宗門御改手形」は、大島における宗門改めが終わったことを藩へ報告したものである。「大島浦惣人数 千五百拾五人」とあり、「当春夏両度之宗門御改、不残切支丹之絵為踏申候」とある。1500人余の人々に対して、春・夏の2

度、宗門改めを実施して踏絵を踏ませていた。作成者は大島浦の肝煎(栄蔵他4人)のほか、浜使の宮田松右衛門、浦年寄の川久保助左衛門・井元利三左衛門・神田甚兵衛であり、当時の浦役人の構成もわかる。

このように、松澤善裕氏所蔵文書は19世紀初頭の

北部九州で最大の経営規模を誇っていた生月島の鯨組主(益富組)の漁場に隣接する大島に関するものであり、捕鯨が周辺の漁民にいかなる影響を与えたか、平戸藩内ではどのように宗門改めが行われたのかなどを窺うことのできる史料群である。今後の研究に大きな示唆を与えるものと思われる。

【参考】

中園成生「大島捕鯨の概要」(『平戸市生月島町博物館 島の館だより』12号 2008年)

『大島村郷土誌』(大島町教育委員会 1989年)

中倉光慶「西海捕鯨と井元弥七左衛門家について」(『松浦党研究』6号 1981年)

埴 薫蔵「大島郷土誌」(『平戸之光』20号 1935年)

史料番号	表題	年代	作成	宛名	形態	内容
1	下絵				和綴、14丁	草花(色)、野草(墨)、コウモリ、水鳥(墨)、寅(墨)、梅(墨)、野草(墨)、狸(墨)、鉢植野草(墨)、おしどり(色)
2	下絵				和綴、12丁	墨線書、人物、伊勢海老、植物
3	下絵				和綴、6丁	水辺と鳥の絵、墨絵
4	下絵				和綴、4丁	ぼたんなどの花、扇子の墨絵、一部彩色、一枚綴からはずれ
5	下絵				和綴、8丁	馬
6	下絵				和綴、6丁	植物の墨絵
7	下絵				和綴、10丁	墨絵 こま犬の絵、野草の絵など
8	下絵				和綴、6丁	银杏、墨描き
9	下絵				和綴、4丁	墨書 風景・魚
10	下絵				和綴、3丁	樹木
11	下絵				和綴、3丁	植物の墨絵
12	下絵				和綴、5丁	彩色有り、風景、かさ
13	下絵				和綴、5丁	狛犬とぼたんの墨絵
14	下絵				和綴、4丁	松、馬、狛犬の墨絵
15	下絵				和綴、6丁	馬(墨)
16	下絵				和綴、21丁	梅や牛などの墨絵
17	下絵				和綴、5丁	墨書、波・龍
18	下絵				和綴、24丁	七福神の墨書
19	下絵				和綴、4丁	カメと池(川?)の墨書 水辺のカメ
20	下絵	安政五年 四月十五日	山川(屋)興一郎		和綴、18丁	武者など人物の墨絵、一部彩色あり、破損あり
21	下絵				和綴、6丁	墨書きで、山水が描かれている
22	下絵				和綴、8丁	一部彩色 茶道具
23	下絵				和綴、4丁	着物の下絵 墨、彩色(松と波)
24	下絵				和綴、3丁	山水、墨描き
25	下絵				和綴、8丁	風景、墨描き
26	下絵				和綴、5丁	鳥、伊勢海老、茶道具、墨描き
27	下絵				和綴、15丁	家、馬、雀、一部彩色、墨描き
28	下絵				和綴、5丁	梅と水鳥、一部彩色、墨描き
29	下絵				和綴、2丁	梅、墨描き
30	下絵				和綴、10丁	鳥、魚、花、大福帳の裏紙使用
31	下絵				和綴、6丁	魚、鳥、ちょう、墨描き
32	下絵				和綴、3丁	亀、墨描き
33	下絵				和綴、3丁	墨描き、亀、松、農家他
34	下絵				和綴、8丁	墨書、鶏・松・千羽鶴の絵、一部彩色、墨描き
35	下絵				和綴、4丁	風景画(竿舟、松、家等・・・墨、ねずみ、うすあか、あおの色指定あり)、袖 一尺四寸、身 三尺二寸、はば：七尺三分、エリ：四尺二寸、はば：二尺三分・・・着物の下絵
36	下絵				和綴、5丁	虎、狛犬、三福神などの墨描き
37	算法記	明治十七年	小川熊治郎		小横帳、4丁	算法の問題と解答
38	人名録				横帳、6丁	人名
39	諸品書付				横長、2丁	食べ物(まんじゅう、かき、けいらんなど)と品名のリスト
40	金銭書付				横長、3丁	長崎行、和三郎百四拾匁、次郎百四拾目
41-1	丑年諸納銀之通	慶應元年正月	舛山屋長右衛門		小横帳、6丁	払方
41-2	諸納銀月講通	文久三年亥正月	舛屋庄平次		小横帳、5丁	正月～12月
41-3	酉年諸納銀通	文久元年	舛屋八百蔵		小横帳、4丁	払方
41-4	午歳迄不納年賦通	文久元年酉十二月	舛屋八百蔵		小横帳、4丁	不納分の年賦帳
41-5	酉年諸納銀通	文久元年酉二月	舛屋八百蔵		小横帳、6丁	払方
42	山口地藏堂作	(明治)九年三月			横帳、11丁	作事に関する収入と支出

史料番号	表題	年代	作成	宛名	形態	内容
43	覚				横帳、6丁	松、炭などの購入費や賃金書付
44	覚				和綴、20丁	金額と屋号及び人名
45	作事入目覚	安政元年卯月	小川		和綴、14丁	賃金の支払いのための出勤簿、終半はご祝儀の書き上げ
46	小諷千秋楽	明治十五年	小川氏		縦帳、25丁	謡
47	覚	己二月	榊屋庄二郎他	小川宇右衛門	和綴、11丁	酒代の請求書など
48	下絵				和綴、4丁	柳などの墨書き、高串、畑津浦など旧唐津藩の地名が記された書付の裏を利用
49	覚				和綴、9丁	金銭支払いの覚か
50	山口地藏堂作事請払帳	明治九年子三月	世話方 小川茂三郎 石田仁八		和綴、15丁	地藏堂建設のための収支
51	先家話之尽		油屋連		縦帳、5丁	二巻之内 六月十四日 連歌集
52	子年煎海鼠御褒美銀斤数定割渡帳	天保十三年寅八月	岩永浜右衛門代		横帳、4丁	鍋申浦のなまこの収穫と褒美銀、銀斤数定割渡帳
53	御銀并諸色納帳	天保十五年	大島浦中倉喜右衛門		縦帳、16丁	「天草鑿釣御運上」などの運上銀について記す
54	丑年諸納銀之通	天保十三年寅七月	出口新蔵 岩永濱右衛門		小横帳、4丁	金銭書上、払方メ百拾三匁壹分、差引、三百五拾四匁八分不納
55	御領分中代官庄屋控帳	文政九丙戌年六月			横帳、6丁	領内の代官と庄屋の一覧
56	御領分中鮪網代記	文政九年三月吉日			横帳、11丁	地名、(人名)、金額書上、大島、五島、など
57	作事小吏覚帳	安政二年卯四月二十二日	小川十郎		横帳、4丁	品物(いも、たばこなど)を記す
58	上使御尋御益覚書	宝永七年六月十四	小川卯右衛門		横帳、10丁	巡見使への対応の覚
59	諸方指引帳	慶応四年七月			横帳、5丁	掛及び入金記録
60	小川年代記	明治四十四年第四月四日生月於テ之写	小川熊次郎		横帳、7丁	綴の状態だったようだが紐が外れている、小川家の系図
61	押様入目仕出帳	天保十一年子十二月	岩永濱右衛門		一紙	薬代、畳縁代など諸品代の書付、もと横帳だったものを継紙にする
62	書状		志佐浦 近藤清五郎 内		一紙	包紙有、(大嶋出来もんめんくる壺つ)の調査依頼
63	書状	七月十七日	(小川) 忠太郎	北松浦郡 平戸生月村 小川与□(破損)	一紙	父及家族へ 息子より 息災である旨の手紙
64-1	書状	十月二十日	藤山若三郎	立石市助	一紙	御廻札について浦中へ申付たという報告
64-2	書状	四月四日	松谷林吉	小川徳左エ門 平松弥五七	一紙	「浦御役所一件」について
64-3	書状	旧七月十六日	小川熊次郎	小川与一郎	一紙	田の日照りや虫害についての内容か
65	書状	五月十六日	御崎大納屋	本田五作	一紙	鮪をとるにあたって、本田五作の漁船が邪魔なのでどけてほしいという内容
66	書状	正月元日	南海宝右衛門	引地喜太夫	一紙	大島、度島の里数書付や大島の絵図の受領について
67	奉伺口上覚	文政七申年	小川屋喜右衛門	御調方御役人	一紙	城下鍛冶屋町中倉伊兵衛の養子について
68	記	(明治)			一紙	金額、人名書上
69	添證文	辰十月	品川久吉		一紙2枚	米百俵拝借、家屋敷并酒造道具拝借引当、奥書有り
70	書状	閏正月二十七日	御崎大納屋	森田吾作	一紙	漁舟一件につき大納屋より掛合のこと、下書、前欠
71	願書	午十月	流川触 町内中		一紙	岩吉家内の内紛について、町内中と12の対処に関する願い
72	書状	十一月七日	南海宝右衛門	引地喜太夫	一紙	測量方役人来訪への対応について、別紙、包紙あり
73	書状		小川熊治郎 小川熊四郎	小川與一郎	一紙	包紙有、父小川與一郎宛の現状報告
74	記	戌三月二日	富田松右衛門	小田切助太夫		絵踏をしなかった人数について、他に断簡6点

史料番号	表題	年代	作成	宛名	形態	内容
75	口達	十月四日	的山浦 白石佐一	浦御役中	一紙	借りた船を消失したため、借主への処罰
76	売渡証文	天保六年末五月	糸山長右衛門 他三名	富永興三郎	一紙	白石左次兵衛、拝借銀不納に付、引当の土地売渡についての証文、拝借添証文あり
77	書状	旧四月十四日	小川熊治郎	小川與一郎	一紙	包紙有、染物に関する内容
78	借金引当書付	天保五年 四月二十七日			一紙	中にこよりで閉じこみ一紙あり、「御城方御貸方より拝借銀」の引当について建家、土蔵のかき上げ、横棒が引いてある
79	覚	二月十一日 ～八月七日			一紙	2月11日～8月8日迄の書上げ
80-1	書状				一紙	口達の控を送る、後ろの文章が欠けている
80-2	口達	子十二月十九日	宮田松右衛門	桑田利左衛門外		井元八十吉方の乙吉について、不行跡の届け
80-3	書状					ご苦勞をかけることへの詫び
80-4	口達		役中			井元八十吉方の乙吉の不人品の届
81	口達之覚		組頭衆 庄や		一紙	組頭衆と庄やから野口安蔵方の米吉の逃亡届
82	書状	十二月三日	末吉亀治	岩永濱右衛門	一紙	包紙有、貼紙有、お世話になったことへのお礼
83	書状	十二月六日	唐津屋彦七	内山儀兵衛	一紙	「浦落銀式百目」のことについて
84	奉御伺口上覚		白木庄次郎		一紙	「夏貝座株」引当に関する覚
85	書状	五月十八日	平松要助忠道		一紙	借金の猶予願、包紙有、別紙一通有
86	記			小川徳左エ門外	一紙	的山浦等の人数・家数等の書き上げ
87	書状	十月二十六日	中田恒三郎	岩永濱右衛門 平松要助	一紙	包紙有、病人について四人方へ別紙を伝えてほしいという依頼書か
88	書状	三月十六日	茂二郎	小川與一郎	一紙	油三十丁、かす五十俵買い手がつかない
89	絵図				一紙	的山大島の地図が描かれている
90	書状	十一月十三日	留岩善之助 日高辰造	岩永濱右衛門	一紙	包紙有、花押有、注文品の催促状
91	書状	十二月十一日	長谷川久兵衛	岩永濱右衛門	一紙	包紙有、「長崎御越公義御廻浦」とあり
92	論語(断簡)				一紙	「論語」の断簡
93	書状	五月十四日	松熊	小川屋卯右衛門	一紙	左の目玉の手術について、包紙有
94	書状	三月十五日	崎村平七	岩永濱右衛門 書役要助	一紙	包紙有り、花押有り、見送りのお礼状
95	地所売買二付地券 御書換裏書願	明治十九年	小川熊治郎	北松浦郡長 朝永東九郎	一紙	地券の裏書の書換えを依頼する文書
96	書状	丑七月二十日	平松	小川屋宇右衛門	一紙	包紙有、付箋有、講の落札について
97	口達	四月三日	浦役人中	立石	一紙	川内木ヶ津浦の梅次郎、市之允の2名が松の木を伐りとったことについての穿さくに関すること
98	覚				一紙	「御切手納」などの金銭書付
99	書状	九月十一日	近藤増右衛門	岩永濱右衛門	一紙	包紙有、岩永濱右衛門、返事が遅れたことによる挨拶状
100	書状	三月七日	萩原萩之丞	小川屋喜右衛門	一紙	松の木伐採につきお答めに関する書簡
101	書状	十二月二十一日	長谷川久兵衛	崎村平七	一紙	包紙有、花押有、大島浦役網の不足について
102	控	(明治)			一紙	北松浦郡的山村土地入札予定額控、持主川淵太造 他6人
103	口上覚	亥十一月十四日	浦役人中	立石民平	一紙	板屋という屋号の命名について
104	書状	(明治)	平松梅之丞他1名	小川與一郎	一紙	野紙、病気見舞い
105	書状	十一月十七日	白石太平、 橋本常作	岩永濱右衛門	一紙	包紙有、「雇銀貳拾壹匁不足」の件について
106	覚書	(江戸)			一紙	大嶋浦の加子などの人名書上
107	書状	八月二十二日	木村種太夫		一紙	包紙有り、喜三兵衛が船大工のところに隠れている件についてなど
108-1	記		立石市助	岩永・藤山	一紙	包紙

史料番号	表題	年代	作成	宛名	形態	内容
108-2	書状	十月二十日	立石市助	岩永濱右衛門 藤山若三郎	一紙	「御触」の廻達依頼
108-3	達	十月	月番	勘定奉行中	一紙	弍朱銀、壹朱銀の通用停止
108-4	書状	十二月五日	永田岸之平	大嶋村在浦御庄屋衆	一紙	出府につき、逆風のため在浦のこと
108-5	書状	十月十三日	加美庄太夫 島田梶之助	立石市助	一紙	花押有り、薬屋の看板について
108-6	書状	十月十八日	加美庄太夫 島田梶之助	立石市助	一紙	花押有り、所持の銀高を御船手へ書き上げる
109	奉伺口上之覚	戊五月七日	小川屋喜右衛門	御調方御役人	一紙	先祖弔いの願い、大嶋浦内踏町人小川宇右衛門の倅の養子先の事
110	書状	六月四日	大浦弥左衛門 (花押)	小川喜右衛門	一紙	網船同士の争いの仲裁、また「五拾両も損失」と有る
111	書状	六月二十六日	神戸屋忠右衛門	小川屋右衛門	一紙	「格別利銀無之」とあり
112	書状	(明治)旧二月三日	大浦湊 神戸屋	小川与一郎	一紙	包紙あり、「躍方借金」とのこと、「浦落金之儀」とあり
113	書状	六月朔日	中村幸八	小川喜右衛門内	一紙	「田平御渡海加子」について
114	控	七月二十三日	小川定右衛門	平松屋治蔵	一紙	「星鹿浦、先達而御改」について、書状の下書き
115	書状	正月十日	大浦丑太郎(花押)	小川刃右衛門	一紙	花押有り、年始の御祝詞
116	書状	十月九日	亀淵庫太	岩永濱右衛門	一紙	包紙有り、「当年鯉処札」のことについて
117	書状	正月二十一日	大納屋	守田五作	一紙	「魚先キニ出張邪魔」とあり、包紙有り
118	書状	十一月十五日	石山新吉	岩永濱右衛門	一紙	水夫雇銀不足のこと
119	書状	閏正月二十五日			一紙	長縄船が鯨をとるのに邪魔だから、もしそれが入りこんで来たら諸道具を取り上げるといふ旨の通知
120	書状	十二月十一日	橋村肥前	大嶋浦御役所	一紙	包書有り、先触書
121	書状	正月十六日	御崎大納屋	守田吾作	一紙	「魚先キ邪魔」になるので、漁船を差し留めるように依頼、書状5通の写し
122-1	書状	八月十日	引地順平	引地喜太夫	一紙	測量方のこと、一貫文のお世話依頼
122-2	書状	八月十二日			一紙	物主を仰付けられた
123	書状	閏正月十三日	御崎大納屋	森田吾作	一紙	長縄船の指し留め依頼、承引なければ船道具を取り上げること、書状2通の写し
124	書状	十月三日	日高辰造	立石市助	一紙	包紙有、花押有、ふち銀を8日までに納めるようにとの書状
125	記				一紙	大嶋浦人名書上、メ59人
126-1	書状	(明治)十七年旧十月二十九日	小川熊治郎		一紙	罪紙、長崎行きについて、生月老部櫻井平吉殿宅ニ到ル、包紙、小川與一郎
126-2	書状	(明治)十七年旧十月二十九日	小川熊治郎	御尊父	一紙	紋付の染色について、徴兵検査の件
127	書状	(江戸)	御崎大納屋	森田五作	一紙	長縄船が鯨の回遊路を邪魔しているので、留めてほしい
128	書状	十一月十七日	平松忠三郎	小川與市郎	一紙	罪線有、包紙有、長崎より送った時の事、忠太郎殿無事であった
129	覚	(江戸)	白石佐市		一紙	紛失した捕鯨道具一覧
130	書状	十月十六日	田原治作、木鳥亀次	岩永濱右衛門	一紙	包紙有、大嶋浦より、「ふそく銀拾九分四厘御座候処」と有り、断簡有り
131	乍恐奉願口上覚	午五月	小川喜右衛門	梶山熊左衛門	一紙	岩永濱右衛門、引請銀一貫800目につき岩永の親類の20年賦返済を覚束なくなったため、その名前についての指示伺い
132	書状	十月十五日	小川林吉 当里染屋 宇右衛門	小川喜右衛門	一紙	前欠、「役方諸懸り物」出金について、断簡有り
133	覚	天保三年頃			一紙	横帳を解き他の記録用紙として転用、物の値段、稼手形など、全26枚
134	書状	十二月十四日	下条龍庵	立石市助	一紙	包紙、本文、添書、生月から送る、借金返済猶予願
135-1	書状	子九月二十六日	森宗右衛門	長崎崎浦々御役人中 松平出羽宇御預所	一紙	隠岐国にて、異国船が漂流した、長崎へ引送
135-2	書状	十月十九日	島屋儀右衛門	小川屋喜右衛門	一紙	「国継写指越可申処延引仕只今写、指送り」とあり

史料番号	表題	年代	作成	宛名	形態	内容
136	書状	四月七日	萩原荻之允	小川屋喜右衛門	一紙	(梅次郎の件について)山奉行よりの申達
137	覚	(江戸)			一紙	大嶋浦「角枕、掛矢、わらじ、小繩、ぞふ里蓆などの方江被仰付けた品々」
138	書状	(明治以降)	小川興一郎	平松庄之丞	一紙	大浦湊 家屋敷の売買に関する依頼状
139	覚	申五月五日	小川屋喜右衛門	紐指村 御庄屋	一紙	嘉子扶持受取の覚
140	覚	三月五日	中倉喜右衛門	弥三吉	一紙	生鮑、「宗門御改日取二付」出役の為に取り扱う品々
141	書状	正月四日	御崎大納屋	守田語作	一紙	「長繩一件」について
142	書状	旧五月八日	小川熊治郎	小川興市郎(生月)	一紙	「かせい金」一円五十銭の払いについて
143	書状	(明治)	大浦	小川与一郎	一紙	試験終了及び、妻の女子出産等、近況報告
144	書状	(江戸)	小川与一郎	小川領助	一紙	唐船の来船について
145	書状	正月九日	大浦空助	小川宇右衛門	一紙	年始の御祝詞
146	書状	四月十八日	佐々三五右衛門	立石民平	一紙	「木ヶ津之者共、松木伐取候程吟味口書」等について
147	書状	申 三月			一紙	4人の百姓の賄代について
148	書状	十一月二十八日	小川虎助	小川興一郎	一紙	「ぶり漁」について
149	覚	(江戸)			一紙	品物と数量
150	書状	四月四日	松屋林吉	小川卯右衛門	一紙	「浦役所」についての問い合わせ
151	書状	四月朔日	伏見屋高助	小川卯右衛門	一紙	為替と帰国についての連絡
152-1	書状	寅七月二十四日	岩永浜右衛門(黒印)	高橋左助	一紙	包紙有、「みつ」の「切支丹之絵」を踏ませたことの報告
152-2	書状	八月十三日	岩永浜右衛門(花押)	高橋左助	一紙	宗門改に印形がないので、印形をして送るように
153	書状		家内より	小川興一郎	一紙	息子の嫁取の件
154	口上覚前文略	臘月二十九日	玄恵 母	喜右衛門	一紙	急用、借金の件
155	書状	十一月二十五日	民平	喜右衛門	一紙	「御用筋有之候間、御仕廻次第御同道」と有り
156	覚		山田利三郎他		一紙	山田利三郎らの不納銀書き上げ
157	書状	十一月十六日	近藤仙五郎	岩永浜右衛門	一紙	包紙有、「大根沓包」の送付
158-1	覚	申七月十日	田嶋屋酒場	小川喜右衛門	一紙	酒代預かりの覚
158-2	覚	未四月十九日	河内浦酒場	小川喜右衛門	一紙	酒代の清算
158-3	覚	申七月十四日	河内酒場	小川喜右衛門	一紙	酒代預かりの覚
159	覚	十二月十八日	格合中	御引附	一紙	染物に関する問い合わせへの回答の控
160	写	(明治)			一紙	金38円余の借金の抵当、建家の書き上げ
161	書状	旧十二月八日	木島権六(大嶋)	小川興一郎	一紙	久兵衛様も来られるので大嶋へ渡海してほしい
162	覚	巳五月			一紙	大嶋浦の本酒屋出店について、破損大
163	奉願口上覚	丑七月五日			一紙	大嶋では不漁続きと悪病流行の為、年賦銀の支払い延期と新たな借銀のお願いの控え、虫損大
164	覚	七月十八日	平松屋	そめ屋	一紙	取引上の不足を知らせる
165	書状	九月八日	下条龍庵	濱右衛門	一紙	「御祝会の発句の魚と酒、お祝いの差上置候」について
166	書状	(江戸)	坂元勘三郎	小川興一郎	一紙	佐渡屋梅造方の件について依頼
167	書状	旧四月十二日	小川熊治郎	父	一紙	生月より渡海のこと
168	書状	旧十月二十九日	忠次郎	小川興一郎	一紙	西福寺檀家の用金について
169	宗門御改皆済証文控	文化十二年乙亥年八月	大嶋浦浜使 宮田松右衛門他	神戸惣左エ門他5名	一紙	大嶋浦の宗門改皆済の控、他に人の名前が書かれた紙片は5枚、浦年寄平松・井元の名前あり
170	覚	午八月十日	大浦三之丞、大浦午之丞	品川治兵衛他3名	一紙	借銀申し込み及び抵当物件、他に2点あり
171	第一条ノ案文				一紙	2枚、売りに出された地所の入札に関する書き方について
172	奉願御切手覚	天保十二丑十一月十三日	平松喜市	山田文右衛門 他3名	一紙	往来切手の申請書の覚、破損大

史料番号	表題	年代	作成	宛名	形態	内容
173	書状	子正月二日	小川虎助	小川與一郎	一紙	大工賃銀払済のこと、包紙有、家の建築が終わるまで滞留してほしい
174-1	書状	(江戸)	丸屋次右エ門 丸屋国次郎	小川卯右エ門	一紙	そちらで万次郎を「御仕入置」ください、包紙有
174-2	書状	卯十一月二日			一紙	万次郎の御仕入置願ひ
174-3	書状	十二月三日	丸屋国二郎	小川宇右エ門	一紙	問屋の名前を知らせてほしい、「どじょう」は参り次第送る
175	口上書	十月四日	元橋仁右衛門 山田宇八 小川梅三郎 品川作兵衛	貞方小	一紙	口達書は白石佐市が出した
176	書状	午七月五日	浜使外山長右衛門 浦役山田文右衛門 他2名	後藤定八	一紙	前欠、長崎行の船の加子として召し使うことについて
177	書状	十二月二十日	鳥飼健五郎 今井郷蔵	吉田儀八 大浦甚四郎	一紙	鯨組発端の仲間について
178	口達	寅九月二十八日	富永興三郎 他3名	立石市助	一紙	天草の鰹釣船11艘が大嶋浦に来た
179	書状	七月六日	小川屋与一郎	木寺只三郎	一紙	世話になったお礼と16日のお誘いの手紙
180	注文	寅十月	富岩善之助(黒印) 日高辰造(黒印)	岩永濱右衛門	一紙	包紙、江戸・大阪のお台所用及び献上用としての海産物の注文、崎方御番所からの付紙あり
181	書状	(江戸)	久市 新左衛門 善六		一紙	後欠、大嶋浦の町人達が長崎の浦上村の良八に鮪網、納屋場に雇われた際の賃金未払に対する申達の書
182	領収書	未正月二十三日	住徳丸情四郎、受人萬屋他1名	小川屋宅右衛門	一紙	阿波国むや迄之運賃金六十五両のうち、十両受け取る
183	書状	二月五日	小川林吉	小川卯右衛門様	一紙	加子の給料のこと、包紙有り
184	書状	三月六日	小川茂三郎	小川與一郎	一紙	「此元鮪漁無之」の事について
185	覚	(明治)			一紙	19年度国税 鏡トメ、塚本甚五郎、山下富蔵、小川與一郎、他2点
186	書状	十月八日	立石市助	岩永濱右衛門	一紙	度島へのお願ひ
187	書状	(江戸)			一紙	前欠、後欠、善六たちが無切手で長崎で網細工を行った件について書かれた書状
188	書状	(明治)	小山熊治郎	小川與一郎	一紙	次回の入目についての問い合わせ
189	書状	七月十三日	平松屋治作	平松屋彌五十 小川屋定右衛門	一紙	包紙有り、付箋有り、星鹿浦の調べがあったことへの見舞
190	書状	十月十四日	桑田利左衛門 (花押) 澤村彌三兵衛 (花押)	引地喜太夫	一紙	先日の別紙の書き付けが「付札」の通りに記入されてきた
191	覚	(江戸)			一紙	御法度の「イカ抜買」の処遇に関する覚、他2点
192	御請書控	十月	大嶋浦中	浦役人衆中	一紙	鯨組に請浦されては、大嶋の漁業ができなくなる
193	書状	二十六日	中倉喜右衛門	山田又右衛門 留永興三郎 品川久吉	一紙	御崎から届いた手紙について、返答をしたいので、御覧のうえ順達してほしい
194	覚	卯九月十八日	中倉喜衛門(黒印)	松本辰次郎	一紙	「百九拾七匁余」の「請取」について
195	書状	三月二十日	鴨川八百治 他1名	小川屋喜右衛門	一紙	松木伐取の梅次郎・市之丞に付き添い、庄屋所へ来るように
196	返事控	正月十八日		御崎組大納屋	一紙	「魚先き出張邪魔」になるという大納屋からの手紙への返事の控
197	書状	九月二十三日	日高辰造	立石市助	一紙	花押有り、包紙有り、大嶋の浦々からの諸納銀が遅れているので取り計らいを願う
198	書状		佐志弥太夫	岩永濱右衛門	一紙	金2歩受け取る
199	口達覚	四月	萩原蘇之丞 立石一平	立石民□□ 廣瀬吉太 近藤熊次郎	一紙	決まりにそむいて木を伐採したので、処罰

史料番号	表題	年代	作成	宛名	形態	内容
200	書状	十月二十六日	日高辰造(花押)	立石市助		多くの不納銀があるので早く納めるよう取り計らってほしい、包紙、付札有り
201	書状	十二月廿五日	山口千五郎	中倉喜右衛門	一紙	「平松氏納銀不納」の事について
202	書状	十二月九日	末武辰次郎	松山瀬右工内宛	一紙	浦の納銀を取立てに行く、他3点、内1点包紙有り
203	奉追願口上覚	亥三月	立石民平	荏原右衛門左衛門	一紙	川内浦濱使小川屋喜右衛門について、町年寄惣領格へ任命願ひ
204	書状	十一月十四日	留岩善之助 日高辰造	岩永濱右衛門	一紙	花印有、「人家帳」の差出しについて、包紙有り
205	返事控	閏正月五日	森田吾作	御崎大納屋	一紙	「魚先 出張邪魔」についての返書の控
206	書状	旧二月八日	平松弥十郎	生月村小川興市郎	一紙	返済期限延引の件
207	書状	正月朔門	南海宝衛門	引地喜太夫	一紙	「御無心申上候処」のお礼
208	書状	十月十四日	船越陽三郎		一紙	先刻渡した包をこの者に渡して下さい
209	書状	十二月四日	尾野並右衛門 (花押)	岩永濱右衛門	一紙	代銀を「浦落」から差し引く、包紙有、付紙有
210	書状	九月	善福寺	浦口役	一紙	「渡海船一船御用意」のお願い
211	書状	六月六日	小川十郎	小川興市郎	一紙	帰島の上、しっかりと養生してはいかが
212	書状		的山浦白石佐一	浦御役衆中	一紙	前欠、「小山西左衛門様御手船」を紛失の事、手紙の下書き
213	口達		浦役中		一紙	小川太郎左衛門からの口達に対する対応についての下書き、他11点
214	断簡	旧三月十七日 (明治)	大浦杉太郎		一紙	病気見舞いの状
215	覚				一紙	人名と金銭の書上げ
216	書状	閏正月十四日	森田吾作	御崎組 大納屋	一紙	長縄船、漁業の道具の取場について
217	書状				一紙	宛名なし、鰹釣船の許可についてのこと
218	書状		佐々木原之充 吉田文吉		一紙	壱州勝本浦より浦落に関する事
219	書状				一紙	「御両神様へ奉願」について、前欠、後欠
220	覚				一紙	金銭書付の断簡をつなぎ合わせ
221	奉御歎口上覚	閏九月	小川屋喜右衛門 (黒印)	立石民平様	一紙	早岐浦岩永濱右衛門病死により「引負銀」不足について、立石から佐々・荏原への奥書有り
222	断簡				一紙	日付、材木、等の記述
223	覚	(明治)			一紙	「九百四拾三番字今寺」「地主清水九平」について、罫紙使用
224	奉願口上之覚下書				一紙	山田文右工門を町年寄格に推撰する、他7点
225	書状	五月二十二日			一紙	城下滞在中、諸事についての報告
226	証	六月二日	大阪ぎ工場回漕問屋 阪茶舎(印)	川興市郎	一紙	運賃請取の証明
227	申口	戌四月二日	梅次郎 市之丞	川口木兵衛	一紙	松の木の伐採について
228	書状	四月七日	萩原萩之丞 立木一平	小川屋喜右衛門	一紙	梅次郎と市之丞の口書添書を明日中に差し出すように
229	覚	二月廿三日	直津浦	川内御役所	一紙	金銭書上
230	書状	七月二十三日	桑田利左衛門 沢村弥三兵衛	引地喜太夫	一紙	測量方御用、公義御触書の写の送付、井元利兵衛踏絵御免等について
231	包紙		藤八		一紙	包紙22点
232	嘆願書	午四月	小川喜右衛門	梶山惣左衛門	一紙	一年間の勘定目録及び御下げ銀割り渡し帳の提出に関する願書、他1点、前欠
233	御請書	丑十一月	井元幸右衛門 平松半兵衛 他1名	御船手役所	一紙	「浦役人中」から「御船手役所」宛の奥書あり、塩商売に関する代銀上納についての請書
234	書状	(明治)	松尾屋徳次郎 他7名		一紙	小川与一あて書状、計8通、御見舞及び挨拶
235	奉願口上覚	(江戸)			一紙	宗門改御免及び除籍の願書の雛型

史料番号	表題	年代	作成	宛名	形態	内容
236	奉伺口上覚	六月廿日	貞方小兵衛 永田平六(花押)	岩永濱右衛門	一紙	若殿様の長崎行きに加子90人仕出するよう割り付けられたが、不漁続きで浦人は難渋している
237	書状		永田平六 長谷川久郎兵衛	岩永濱右衛門	一紙	御台所注文の鯛(するめ)拾五連を来月五日までに納めるように
238	五ヶ村割並式ヶ浦割控帳	天保十五年辰十一月十二日	大嶋浦 中倉喜右衛門		一紙	米や塩の物品を記す、もともと横帳であったものの断簡
239	記	(江戸)			一紙	浦日付役所にある台所道具の明細書か
240	奉追願口上覚	戌二月	立石民平	佐々三五右衛門 荏原右衛門左門	一紙	川内浦濱使・小川屋喜右衛門を町年寄惣領格にすることを願う内容
241	奉願口上覚扣	亥正月廿八日	宮田松右衛門	引地喜大夫	一紙	大嶋浦崎田千助妹はせが平戸町内山善次郎へ嫁ぐため、当浦帳面よりはらず旨の願書扣
242	[調査手引書]	(江戸)			一紙	各浦立調査する時の形式・手引書、家数・範囲・寺社・名所・旧跡などの調査
243	奉願口上覚	(江戸)			一紙	宗門改の際の雛形
244	宗門御改手口(形力)	文化十一申戌年八月	肝煎 市六・五左衛門 他		一紙	大島浦の宗門改の手形
245	宗門御改手形	文化十五戌寅年四年	肝煎 栄蔵他4名 濱使 富田松右衛門 浦年寄 川久保助左衛門 他2名	宮本権八 萩原波左衛門	一紙	奥書あり、大島浦の宗門改の手形
246	宗門御改手形	文政元戌寅年八月	浦年寄川久保助左衛門 他8名	小関三七 他10名	一紙	当春・夏2度の宗門改が完了した
247	宗門御改手形	(江戸)	郡代宇佐美字右衛門 他3名	森田作之進 他4人	一紙	前欠、奥書のみ、下書き
248	[宗門改手形]	(江戸)	浦年寄 平松太次兵衛 他4名	引地喜大夫 他10名	一紙	前欠、大嶋浦の宗門改についての証文、前欠
249	宗門御改手形		肝煎 弁次郎 他4名 濱吏 元橋仁右衛門 他3名	七種笹右衛門	一紙	大嶋浦の宗門改の手形
250	成夏宗門御改人拂證門	(江戸)	宮田松右衛門	古川戈三郎	一紙	大嶋浦人のうち宗門改の絵踏から除外された人物、包紙有
251	寅春宗門御改人払扣	(江戸)寅三月	宮田松右衛門	土肥左久馬	一紙	大嶋浦惣人数千五百拾四人、絵踏人数千八拾貳人、除外者(御家中奉公女中、遠島者、癩病人)
252	書状	十一月朔日	加美庄大夫 嶋田梶之助	立石市助	一紙	包紙有、大嶋浦の浦人家書き出しの督促
253	差紙 13枚	(江戸)	今浦伴助	大嶋浦濱吏	一紙	傳通船1艘の加子尾野並右衛門殿を渡海のため大嶋浦から出してほしい、他12点
254	窺書				一紙	付箋3枚有、西福寺の門・湯殿・雪隠を「手覚悟」で建てたいが松材木少々在方から受取ってもよいか
255	書状	十月十九日	富岩善之助	岩永濱右衛門	一紙	花押、包紙有、付紙有、「此壺封」を届けるようにとの件
256	書状	十月二十一日	瀧野直次郎	岩永濱右衛門	一紙	一朱銀と二朱銀について、包紙有
257	書状		岩永濱右工門	日高辰吉様 富岩善之介	一紙	泡谷八十八様のために加子を申しつけられ承知しました、包紙有
258	習字練習紙	(江戸)			一紙	元長帳をバラして、ひらがなを練習する
259	附紙				一紙29枚	「河内浦庄屋中」とある、附紙29枚
260	書状	(江戸)	立石市助 他	岩永濱右衛門 他1名	一紙5点	文字金銀及び草字銀等の通用停止と石燈籠・庭石等の高額な物の製造売買停止について、老中の書付写及び大目付の廻状の写等5点を糊付け
261	下絵				一紙	カニ、エビの絵
262	下絵		小川新吉		一紙	藤、蓮など植物図25枚
263	下絵				一紙	馬の絵など全9点
264	下絵				一紙	下絵 亀の絵など全8枚

史料番号	表題	年代	作成	宛名	形態	内容
265	下絵				一紙	虎の絵など9点
266	下絵				一紙	大根と鼠の絵(3枚)
267	下絵				一紙	鬼の絵など4枚、裏紙使用
268	下絵				一紙	鳥の絵など全26点
269	下絵				一紙	鯉の絵など10枚
270	下絵				一紙	竹の絵 6枚
271	下絵				一枚	馬の絵
272	覚	(明治)	地主 東山徳治 (黒印) 他4名		一紙	耕地に関すること、罫紙3点
273	下絵				一紙	狛犬の絵など8枚
274	下絵				一紙	鯉の上に乗っている老人図など20枚
275	下絵				一紙	うさぎの絵
276	下絵				一紙	武士の絵が描かれている、14枚
277	下絵				一紙	宗教系の絵画、「井出平吉」と書かれている紙あり、彩色画あり、11枚
278	下絵				一紙	子供の図など人物図、ほか36枚
279	下絵				一紙	享保雛が描かれている、「大浦屋兼作」とあり
280	下絵				一紙	鹿(彩色)、他4種(無彩色)
281	下絵				一枚	風景の絵など6枚
282	下絵				一紙	蒸気船
283	下絵				一紙	着物の下絵など2枚
284	書状	旧8月9日	小川熊治郎	小川御親父様	一紙	入札について、罫紙
285	地所永代売渡証	明治19年11月	小川熊治郎	大野宇之助	一紙	罫紙、松浦郡大嶋村の畑1反5畝23歩の永代売渡証文
286	引続営業御届	(明治)		北松浦郡長磯野直諒	一紙	紺屋職の営業
287	奉追歎口上と覚	午正月	小川屋喜右衛門		一紙	小川屋喜右衛門が浦勘定の役を退役したいという旨の口上覚
288	覚	旧4月15日	木寺権六郎(黒印)	山浦忠次郎	一紙	諸品代の請求書、他8点
289	書状	戌10月	虎次郎	小田屋徳左衛門 他三名	一紙	金銭出入りについてのこと、前欠
290	覚	(江戸)			一紙	「銀出入」、他7点あり
291	書状	(江戸)	永田平六	岩永濱右衛門	一紙	「加子呼出」のこと、他9点
292	書状		小川喜右衛門		一紙	引負銀返済について、他20点
293	覚	(江戸)			一紙	「同三両梅作」とあり、他33点
294	奉伺手控口上覚	酉2月	川内濱使小川屋喜右衛門		一紙	紺屋を弟へゆずりたい、大嶋浦家内帳から川内浦御帳請込方御免の伺の口上、他43点
295	記				一紙	捺印の切り抜き